

学校教育目標	中・長期的目標	総合評価
1 高い知性と豊かな心、健やかな体を育み、自ら考え探究する力を養う。 2 個性や能力を伸ばし、自主・自立の精神と敬愛・協同の精神を培う。 3 社会の一員としての自覚を高め、進んで社会に貢献する人物を育てる。 4 国際社会を深く理解し、平和を希求する人物を育てる。	(1) 生命・人権尊重の精神と敬愛・協同の精神を養い、安心・安全な学校づくりを行う。	生徒にとって安心・安全な学校づくりのため、全職員が継続して課題に対応していく。職員間の情報・課題の共有をより綿密に行い、複数人体制での対応を徹底する。
	(2) 生徒の主体性を育み、個性の伸長と智・徳・体の育成を図り、探究的な学びを通して学力の向上を図る。	SSH委員会を中心に課題研究を中核とした探究的な学びに取り組み、主体的に学ぶ力を育成した。新学習指導要領に示された3つの力の育成に向けて、取り組みを継続する。
	(3) 開かれた学校づくりと地域や外部機関との連携を推進し、生徒の社会参画の力と未来を創造する力を育てる。	2回の授業公開に加え、地域ボランティアや飯高生チューターを実施した。また、SSH事業や生徒会活動などにおいても外部機関との連携を積極的に行った。
	今年度の重点目標(評価項目)	成果と課題
	① 互いの存在を認め合う人間関係を構築するため、様々な場を通じて人権意識の啓発と尊重に取り組む。	生活指導係を中心に、人権教育を通じて人権意識の涵養に努めた。個々の事案については、担任・学年だけでなく、係・学校全体で連携し、対応していく。
	② 学校全体で「探究的な学び」に取り組むとともに、将来展望をふまえた多様な学びや学校のあり方を検討する。	全学科で課題研究に取り組み、探究的な学びを深めることができた。探究学習に全職員がかかわるような体制を今後も継続していく。今後の生徒数の減少を見据え、学科や教育課程のあり方を含めた将来展望について、継続して検討していく。
③ 「主体的・対話的で深い学び」の推進と進路実現に向け、授業改善と生徒自らが考える力の育成を図る。	各教科で「主体的・対話的で深い学びができる授業」を開発・実施している。またSSH委員会を中心に、教科横断型授業や各種連携授業の計画・実施を行っている。ICT活用のための研修の機会を今後一層増やしていく。	
④ 学校と家庭、地域との連携及び協力のもとに教育活動を進めるとともに、情報発信の充実を図る。	文化祭・強歩大会等で、多くの保護者の方の協力を得た。また、生徒会活動や課題研究の中で地域とのつながりを深めた。ホームページの定期的な更新や「飯高ジャーナル」の発行、SNSの利用など、迅速な情報発信に努めた。	

A(よくできた) B(だいたいできた) C(やや不十分) D(不十分)

重点目標	評価項目	主となる分掌	評価の観点	評価%				成果と課題	改善策
				A	B	C	D		
①	互いの存在を認め合う人間関係を構築するため、様々な場を通じて人権意識の啓発と尊重に取り組む。	1学年	・生徒ひとり一人が、高校生活に適応し、新たに出会った仲間と絆を深めていけるように支援することができたか。そのうえで、進路への意識を明確にし、日々の学習に対して前向きに取り組めるよう指導することができたか。	52	48	0	0	HR活動や個人面談などを通して、生徒の学校生活を注意深く観察することを心がけた。状態が不安定な時は、情報を共有し学年を中心として複数の職員で対応した。 進路指導としては、夏期休業中に探究科を中心に新潟大学のオープンキャンパス参加を計画・実行し、進学への進路意識を支援した。また、2学期期末考査前にスタディサプリでの朝学習の時間を設け、落ち着いた試験前の授業に臨めるよう取り組んだ。学生の自分である学力をしっかりと定着させるために、生徒自ら学習に取り組むことができるような工夫をしたい。	多くの生徒が学校生活に慣れてきているものの、学校生活に不安を感じている生徒も実数いる。2学年になれば、学校行事にも中心となり携わることも多くなるので、同学年だけでなく上級生、下級生、に対してもお互いを尊重できるよう指導していきたい。 学習面においては、スタディサプリで生徒の学習時間や成果を可視化に取り組み、さらなる活用を促したい。
		2学年	・学校生活の諸場面において、他者を理解し、尊重する態度を育むことができたか。特に文化祭や研修旅行などの行事を通しては、周囲と折り合いをつけながら一つのことを創り上げる達成感を味わうように支援することができたか。	50	50	0	0	学校生活・学習・クラブ活動の各面において概ね安定した学校生活を送った。文化祭や研修旅行などの行事や日常の活動を通して協調性や責任感を育む姿が見られ、学年全体として一定の成長が認められる。一方で、時間管理や自覚意識、学習への主体性には個人差があり、継続的な指導の必要性が確認された。 学習面では、授業や課題に真面目に取り組む姿勢が見られるものの、受け身の学習にとどまる生徒も多く、学習方法の定着や振り返りの不足が課題として挙げられる。また、クラブ活動においては上級生としての役割を果たしているが、活動と学習の両立に課題を抱える生徒も見受けられた。	LHRや個別面談を活用し、進路情報の提供と自己理解を深める指導を行うことで、学習と将来の関連性を意識させていく。また、目標設定と定期的な振り返りを学年全体で継続し、自ら課題を見つけ改善する学習姿勢の育成を図るとともに、教科と連携した学習方法の指導を強化する。3年生として求められる自覚と行動を具体的に示し、学年末から段階的な意識づけを行うことで、最上級学年への円滑な移行を図っていく。
		3学年	・最上級生としての自覚を持ち、生徒会活動やクラブ活動等に主体的に取り組む中で人権尊重の意識の高まりを促すことができたか。また、進路指導を通して、生徒一人一人が自分の生き方を決定し、将来をデザインできるように支援することができたか。	71	25	4	0	最上級生としての自覚を持ち、生徒会活動やクラブ活動に主体的に取り組む中で、人権尊重の意識を一層高めることができた。また、進路指導を通じて、生徒一人ひとりが自分の生き方を主体的に選択し、将来をデザインできるよう支援することができた。 課題としては、進路決定者の進路実現のための一次特編のあり方や、共通テスト受験者の取り組み方について検討する必要がある。	共通テストや1次特編の改善点については、今年度の反省を生かして、学年だけでなく学校全体の課題としてとらえて進路係中心に検討を進めてほしい。
		生徒会係	・生徒会活動・クラブ活動等の自主活動を充実させ、生徒一人ひとりが自己肯定感を持ち主体的に活躍できるよう支援することができたか。	54	46	0	0	・文化祭・各種行事・学校生活において、生徒が積極的にアイデアを出して改善を進め、生き生きと成長していく姿が見られた。この流れが途切れないよう、支援していきたい。	・各種活動の目的への意識をはっきり持たせて、前年踏襲や言われたことをやるだけではない生徒会活動・クラブ活動になるよう目を配ってほしい。
		生活指導係	・人権尊重と、いじめ・暴力のない安心安全な学校づくりができたか。 ・多様な生徒に対し、生徒相談の体制を充実させる事ができたか。	37	42	4	17	・全校一斉人権教育を通じて、いじめ問題、同和問題、障害者の人権について学ぶことができた。 ・多様な生徒に対応するため、生徒相談体制を整えることができるとよい。	・生徒相談に関しては、担任主体になっている現状がある。生徒相談専門の先生を常駐するよう体制を整えられるよう検討してもらいたい。

		保健環境係	・生徒の心身の健康を支援する活動や全体での取り組みができたか。	46	37	0	17	・5月より気温が上昇し、9月まで続き長期に渡り熱中症対策を行なった。 ・今期も感染症対策を中心に学校から家庭・地域社会への感染阻止を中心に頑張ってきた。10月2年研修旅行では多くのインフルエンザ感染症を発生し、学年閉鎖を行った。文化祭ではドキドキ健康チェックを行い、来校者を巻き込んで健康のレベルアップに繋げることができた。	・今後も日常的に熱中症・感染症対策を行っている。 ・将来に繋がる生活習慣、ストレスコントロールを身につけていけるように援助していく。
		環境整備係	・校舎を長く気持ちよく使えるように美化に努め、望ましい教育環境の整備ができたか。	63	33	4	0	・新たな取り組みである「美化推進週間」を実施したことで、学校全体で整理整頓の意識や委員会の連帯感を高められた。 ・大掃除や部室清掃の際に大量に出される不燃性のゴミの中には、廃棄が難しいものがあり、校用技師の方で個別に処理してもらっている現状がある。	職員・生徒ともにごみの分別方法や出し方への理解を深められるよう取り組んでいく。
②	学校全体で「探究的な学び」に取り組むとともに、将来展望をふまえた多様な学びや学校のあり方を検討する。	各教科	・各教科の特性を踏まえ、ICTの有効的な活用を含めた生徒の能力や個性および各学科の実態に即した指導を研究することができたか。	48	52	0	0	教科ごとの特性に応じて、ICT機器の活用・指導法等について研究を進めた。	他校の情報なども積極的に収集し、よりよい授業づくりを進める。また、教科間の情報共有や連携にも取り組む。
		普通科	・多様な生徒の能力、個性、進路希望に応じた学習環境を整備し、進路指導することができたか。	46	54	0	0	多様なニーズに対応したカリキュラムを用意しているが、クラス減等を見据えて整理・検討していく必要がある。	カリキュラムの整理・検討を進める。
		探究科	・探究活動や課題研究の中で、各教科で学んだ知識・技能を応用することで学習の深化・高度化を図れたか。 ・国際的・地球規模の視野を持ち、課題発見力、解決力及び情報発信力を育成できたか。 ・高い目的意識と主体性をもち、進路実現に向かう姿勢をつくることができたか。	46	50	4	0	多くの大学や研究機関、企業等と連携して授業を行った。また教科連携や授業改善を目的として、教科ごと指導単元の年間スケジュールを一覧にし、相互に関われる環境整備をした。 教職員研修を行い、探究活動ルーブリックや研究倫理について理解を深めることができた。 科学系コンテストにおいて学生科学賞、総文祭予選等で多くの成果を挙げた。 サイエンス・ダイアログの実施を通して、外国人研究者との対話を行い、学術研究の国際性への関心や理解を深めることができた。 探究活動への取り組みや実績を進路実現へと繋げていく取り組みが課題である。	引き続き探究学習に関する教職員研修を実施し、学校全体で研究や探究活動に対する理解や取り組みを深めていく。 継続的な海外との交流を計画する。 一般教科における探究活動の普及を推進する。
		スポーツ科学科	・学科の特徴を踏まえ、生徒の能力・個性に応じた指導で学力及び社会性や主体的な学習姿勢を伸ばすことができたか。 ・専攻種目の指導を通して、競技力の向上を図ることができたか。 ・課題研究に積極的に取り組むことで、課題発見能力、課題解決力とプレゼン能力を伸ばすことができたか。	66	26	4	4	・スポーツ科学科として、必修科目のスポーツVIでは1年時から体づくり運動を学び、その学びを活かして3年時では、運動指導の実践など専門学科として学びを深めた。 ・専攻種目ごとに競技力を向上させてきている。県大会、全国大会、世界レベルの大会などで生徒の活躍がみられた。 ・課題研究では、学校全体での取り組みも含め、課題発見力やプレゼンの力が年々上がっており成果を感じている。	・スポーツVIでの小学生への指導は年2回を計画しているが、今後も指導する場を増やし経験値を上げていく必要がある。 ・課題研究や専攻で、成果を上げている生徒がいる反面、伸び悩んでいる生徒もいる。指導者の数にも限界があるので、課題研究での学びを活かし、1人1人が主体的に自身の競技力向上に取り組める指導を工夫していきたい。
		学校運営会議	・SSH事業や新学習指導要領をふまえて、「3つの方針」「グランドデザイン」のブラッシュアップを含めた将来展望について議論を深めることができたか。	25	50	21	4	ビジョン検討部会を中心に、将来の展望や学校のあり方について議論を行った。 課題は、現在もおこなっているが学校に関する問題点や改善点を、個別の事象にとどめず、学校全体の課題として捉え、検討できるようにすることである。	ビジョン検討部会を中心に、課題や問題点を解決できるように引き続き検討会議を設定する。
		カリキュラムマネジメント委員会	・教育課程について、各部署から意見を集約し、よりよいあり方を検討できたか。 ・新たな評価のあり方の研究を進めることができたか。	29	59	4	8	令和8年度に実施する選択科目について、各教科と十分な議論をもって調整し、その過程で一部教育課程表の修正を行った。属性の異なる3つの科に対し、それぞれの生徒の進路を見据えた学力をつけさせるための適切な教育課程となっていくかどうかについては継続で検討すべき課題となる。	カリキュラムの根幹となる「学校の方向性」や「本校生の多様な進路を踏まえた学習機会の保障」など、本校独自の課題に着目し、継続的なカリキュラムの検討と改善を行う。他校の教育課程も参考にしつつ、長期的な視点でのカリキュラム作成を目指す。
		各教科	・授業内容、授業方法について各教科で研究し、課題を発見する力など、社会が求める「新しい学力」の向上を目指すことができたか。	40	52	8	0	各教科の特性に応じ、ICTの活用も含めた授業内容、方法の研究を進めた。	教科間連携も含め、効果的な授業内容、方法の研究をさらに進める。
		進路指導係	・「主体的・対話的で深い学び」の取り組みを通し、進路意識の向上と生徒一人ひとりの進路実現を図ることができたか。 ・模擬試験の分析結果等を学年・教科・生徒と共有し、生徒自身の主体的で深い学びへとつなげることができたか。 ・学びの基礎診断等の結果を分析し、授業に取り組む姿勢や家庭学習の問題点を明らかにし改善することができたか。	46	54	0	0	【就職指導】公務員は7名合格。不合格者1名は専門学校へ進学予定。公務員合格者の多くは1・2年次から取り組んでおり、早めの対策が有効であった。民間企業は売り手市場であり、民間企業就職希望者は4名が希望の事業所に内定。 【進学指導】国立大学の学校推薦選抜・総合型選抜では9名が合格、2名が1次合格。進学意識を持たせるために、第一志望届への取り組み・学問研究・学校研究等を早期に実施することができた。年内合格を目指す生徒が増えていることを踏まえ、探究活動をどのように進学に結び付けていくかさらなる研究が必要である。	・就職希望者は2年次からの取組が必要である。 ・受験科目の把握と教科担任の連携(特に文転者)。 ・欠席、時間厳守、挨拶、身だしなみ、清掃等日常生活指導を進路の観点からも全職員で取り組むべき。 ・探究活動と進路指導の連携をとりながら進学指導を進めていく意識を全職員で共有する。

③	「主体的・対話的で深い学び」の推進と進路実現に向け、授業改善と生徒自らが考える力の育成を図る。	飯山カリキュラム委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の中学校と連携をとり、数学・英語を中心に各教科の学力向上のための取り組みができたか。 ・高校生チューターにおいて、生徒が主体的に中学生へ対話することを通して、進路実現の見通しにつなげることができたか。 	46	46	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・城北、城南、野沢温泉中学校と連携をとり、継続的に中学校との授業交流を行うことで中学生の学習活動の実態を把握できた。また、中学と高校の学習内容のつながりを意識することで高校での学習意欲向上となるよう努力した。 ・夏秋の2回の飯高チューターにおいて、本校生が各自で工夫をしながら積極的に教科指導に当たり、中学生にも好評を得た。高校生の中には将来教員を志望する生徒もおり、教えることの喜びや難しさを改めて感じとり志望を強くした。中学生は本校入学を志望する生徒もおり、高校生活について興味深く聞く姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高交流においては、中学と高校で互いに目的をしっかりと確認し、教員同士の連携を密にこころ。 ・年度当初に本事業の目標を再確認し、授業担当者間で取り組み方について確認する。特に年間を通しての計画を立て、見直しをもって授業交流に臨めるようにする。 ・高校生チューターの募集が年々困難になってきた。しかし、参加者からは好意的な感想が聞かれるので、引き続き飯高チューターを夏秋に実施し、多くの中学生や高校生の参加を呼び掛ける。学生同士の交流を通して中学生に本校の様子を知る機会を設ける。
		SSH委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の「主体的・対話的で深い学びができる授業」を開発実施することで生徒の興味と疑問を喚起し課題研究に繋げることができたか。 ・「課題研究」を中心に据えた教育プログラムにより課題発見力・設定力・解決力及び情報発信力を育成することができたか。 ・ルーブリックやポートフォリオを活用することで、生徒の成長や教員の授業改善に繋げることができたか。 ・科学系コンテストや対外的な活動に参加するなど、積極的に情報発信できる生徒が増えたか。 	54	42	4	0	<p>学校全体で「課題研究」に取り組むことができた。12/14県探究フェスティバルにはポスター5件、口頭3件の発表を行った。</p> <p>学校全体での発表会(3/5なちゅら)を行うことができた。</p> <p>1年生探究基礎SS1を同時展開し、年間通じたプログラムを実施できた。また、情報・数学と連携し、データ処理のプログラムを設計し導入することができた。SSHコーディネーターの活用により、地域産業や研究機関との連携授業を実施することができた。</p> <p>高校生が講師となり、小学生を対象とした理科実験教室を計画実施することができた。</p> <p>他校との協働や、研究成果を共有する場を構築していくことは課題である。また、学校全体での意思統一と指導力向上は引き続きの課題。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き教科・授業との連携をすすめるとともに、データ処理のプログラムの改良改善を行う。 ・科学コンテストへの参加を奨励する。 ・SSHコーディネーターの活用を継続し、地域の探究活動のハブとなる取り組みを実施する。県内外の高校との連携や、地域の小中学生との交流を増やしていく。
		ICT情報処理係	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末が整備され、それを生徒が授業等で十分に活用できるようICT機器の整備をすることができたか。 ・クラウド型授業導入アプリを導入し、教員が授業で活用できるように研修会を計画することができたか。 	63	33	4	0	<p>1人1台端末の整備、教員のタブレットの整備、各教室のプロジェクトの管理・更新など滞りなく行えた。</p> <p>研修の案内・情報発信を定期的に行うことができた。</p>	<p>ICTの活用面で教員の研修機会を増やしていくことに加え、各授業での具体的な使用例やスキルを共有する場を設けていく。</p>
④	学校と家庭、地域との連携及び協力のもとに教育活動を進めるとともに、情報発信の充実を図る。	教務係	<ul style="list-style-type: none"> ・学校HPや飯高ジャーナル等を通して情報を速やかに発信することができたか。 ・公開授業や体験入学に多くの参加者を得ることができたか。 ・ICTを活用し、生徒・保護者との連携を図ることができたか。 	67	33	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・学校HPの定期的な更新や情報の整理に努めた。また、ホームページ再構築に向けた作業を進めた。飯高ジャーナルの発行を新聞委員会と共同で行った。 ・2回の公開授業を実施した(5月24日:163名(+40名)、9月29日:38名(-5名))。体験入学では中学生245名の参加者を得た(昨年度243名)。 ・Googleフォームでの欠席連絡、きずなネットでの連絡により、職員・保護者間での情報共有を円滑に行うことができた。 	<p>情報発信について、係内の業務分担や内容の整理を行う。公開授業により多くの参加者を得ることができるよう、より効果的な中学生への周知・PRの方法を検討する。また、外部のみならず本校保護者に対しての周知も計画的に行う。</p>
		PTA厚生係	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会への参加率向上が図れたか。 ・PTA行事の企画運営を保護者とともに進めていくことができたか。 ・PTA会報の発行等をおして情報発信が図れたか。 ・活動内容・時期の見直し・精選等が行えたか。 	75	25	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・総会の出席は、クラス減の中でも昨年度とほぼ同数でした。 ・行事の企画運営については、正副会長をはじめとして保護者と連絡を密に取れたと思います。 ・昨年並みの分量の紙面で会報を組む事ができました。 ・強歩大会時における有志ボランティアは、関門等での給水補助、ゴールでの飲料・軽食配布という方式で昨年に倣い、予想を超える多くの会員協力のもとで実施できました。初めての試みであった文化祭での駐車場係補助にも予想を上回る多くの保護者の方々に協力いただきました。 	<p>次年度以降、どのような活動が可能なのかは、学校職員とも連携しながら、意思決定会議であるPTA幹事会・評議員会・総会で議論していきたいと思います。</p>
		生徒会係	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が積極的に社会の動きに目を開き、地域の行事や社会活動などに参加、協力できるよう、生徒会活動・クラブ活動等を支援することができたか。 	67	33	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・例年どおり灯籠まつり、赤い羽根共同募金、えびす講などに協力することができた。地域の神社の給馬を描いたり、長野市の灯籠まつりにも協力したりするなど、活動は広がっている。 	<p>・社会問題などにも目を開き、さらに活動の場を広げられるような支援もしていきたい。</p>
		同窓会係	<ul style="list-style-type: none"> ・桂雪会WEBサイトや桂雪会報によって多くの情報を発信ができたか。 ・同窓生による「ホームカミングデー」の企画検討が進んだか。 	42	54	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ・例年通りに会報を発行できた。 ・8月に卒業30年の卒業生を集めての同窓会を兼ねたホームカミングデーを実施した。 	<p>・ホームカミングデーについては、来年度の実行委員も決まり、開催予定である。早めに計画していきたい。</p>